

26PA-pm428

高校生を対象とした薬物乱用に対する意識調査

○安部 望里¹, 石井 汰王¹, 千葉 輝正¹, 小林 賢¹, 脇 能広¹ (¹日本薬大)

【目的】平成 23 年度より、我々は日本薬科大学近郊の高等学校にて薬物乱用防止講演を実施してきた。今回、薬物乱用防止講演において薬物乱用に関する意識調査を実施し、興味ある知見が得られたので報告する。

【対象】本学倫理委員会承認のもと、アンケート調査を承諾いただいた高校 1 年生 (160 名; 男 70 名、女 90 名)、2 年生 (147 名; 男 74、女 73 名)、3 年生 (143 名; 男 69 名、女 74 名) の計 450 名 (男 213 名、女 237 名) を対象とした。

【結果・考察】(1)「あなたはこれまでに薬物乱用防止に関する授業・講義を聞いたことがありますか?」という問いについて、「聞いたことがある」と回答した生徒は 94.7 %であったのに対し、「聞いたことがない」と回答した生徒はわずか 5.3 %であった。「聞いたことがない」と回答した生徒は 1 年生 4.4 %、2 年生 4.8 %、3 年生 12.6 %と学年が進行するにしたがい高くなる傾向があった。(2)「薬物乱用すると依存状態になることを知っていますか?」という問いについて、「知っていた」と回答した生徒は 95.8 %であった。それに対して、「知らなかった」と回答した生徒はわずか 4.2 %であった。この問いも前問いと同様に「知らなかった」と回答した生徒は学年が進行するにしたがい高くなる傾向(1 年生 3.8 %、2 年生 4.1 %、3 年生 4.9 %) がみられた。(3)「もし、あなたが覚醒剤を手にしようとした場合、それはどの程度むずかしい印象をお持ちですか?」という問いについて、「絶対に不可能だ」・「ほとんど不可能だ」と回答した生徒は 33.6 %であった。それに対して、「少々苦勞するが、なんとか手に入る」・「簡単に手に入る」と回答した生徒は 33.8 %であった。この結果から、高校生は覚醒剤を手に入りやすいと考えていることが判明した。その他の結果については、学会において発表する。